愛知工業大学
名古屋電気短期大学
名古屋電気工業高等学校
愛知工業大学附属中学校

# エレキ

発行所
名古屋電気学園
同窓会
名古屋市千種区若水町1の18
TEL(73)0012・6639・6642(74)4530

# 五十周年記念式典

## 六月一日と決まる

かねてから計画中であった名古屋電気学園五十周年記念式典が来る六月一日金山体育館で、政界、官界、実業界、言論界、教育界、スポーツ界等からの名士を迎え盛大に行なわれることになった。なお学園も記念祭行事を左記の通り行なうことを決定した。

### 中学校、高校記念行事

六月二日（於学園）九時—十二時
展示会
大学館　会社製品展示会
高校館　生徒会各クラブ展示作品展
体育館　運動部　練習紹介
庭園　ブラスバンド演奏

六月三日　九時—三時
体育大会
於　名工大グランド
陸上、軟式野球、ソフトボール、バレー
卓球、バスケット
柔道、剣道、庭球

六月四日　九時—三時
於　名古屋市公会堂
文芸大会
演劇　高校各学年一
中学校一
バンド演奏
映画

### 大学記念行事

六月二日
ダンスパーティ
於　シルバースリッパ

六月三日—六日　十時より
展示会
於　大学本館

六月四日
音楽会
於　本学体育館

六月五日　十時—一六時
科学映画
於　大学体育館

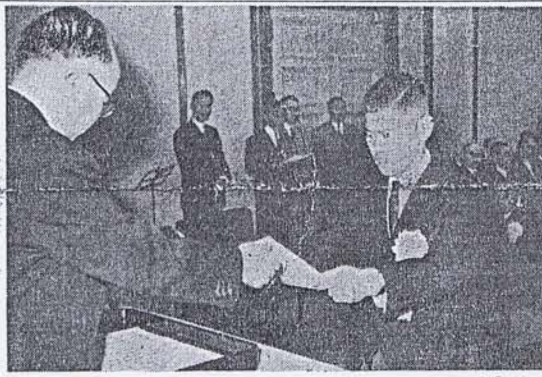
六月七日
講演会　中区役所ホール
講演題
欧米ソの科学教育について
講師　鎌原　登
前科学技術庁次官

六月八日　九時—十二時
映画祭
於　中小企業センター
無法松の一生
テンペスト

### お知らせ

同窓会総会
六月一日
五十周年記念式典後母校体育館において四時三十分より開催致します。

（上）初期の東新町校舎　（下右）在りし日の後藤鋻三郎先生
（下左）開学初当の鐘



体育・教育功労者として表彰される学園長（36.11.3）

## 第一回愛工大生巣立つ

名古屋電気短期大学に始まった本学園の大学もその後、めざましい発展をとげ、昭和三十四年四月に四年制大学に昇格し、（当時二科であった学科を）三十七年には五科増設と、大学本館の完成とともに開学式を行ない大学として恥かしくない外観と内容が一致した。三十七年三月に短大を含め、九十名近くの学生を世に送った。そして時代の要求もあって、彼らの殆んどが思う所に就職した。

なお、卒業式には、左記の方々の出席を得た。

桑原県知事、杉戸市長をはじめ、前郵政大臣、小金義照氏、元厚生大臣、草葉隆円氏、元電波庁長官、網島毅氏、東海電気通信局長橋本一郎氏、名古屋中央電話局長、鈴木一松氏、東海電気通信局建設部長　阿部孝氏。

## 高校館完成近し

二、三年前に卒業した者がたまたま学園へ来ると、あまりの進展ぶりに驚き、これが我々の卒業した母校だろうかと首をかしげる。それ程に電気学園は毎年進歩向上しているのが現実である。

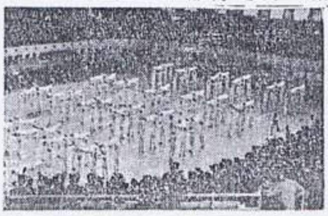
四月に始められた新高校館（旧中学校敷地）の建設も着々と進み、完成も間近い。

新高校館は、五階建てのモダンなもので、竣工式は八月中旬には行なわれる予定。高校生は二学期より新校舎に入れるわけである。設備は現在の高校館とほとんど同じで建物は大学の応用化学館を二倍ぐらいに大きくしたもので、総面積は五万二千平方メートル。教室は二十四教室（実験室には無線、通信の二つがあり、その他一階には売店、小使室それに洗面場も設備されています。）各教室の大きさは現在の高校館と同じぐらいで黒板も同じもので各室には四〇W二灯用の蛍光灯が付いている。階段は校舎の室内東側に室内階段が有り屋外に一つ（非常用）階段ができる。この校舎が完成されるとその両側より次の校舎設立が続行される。五年もしたら見違える程立派な高校館ができることだろう。

## 新入生歓迎大会

今年初めての試みとして新入生歓迎大会が去る四月二八日金山体育館で行なわれた。各クラブの紹介とそのクラブの特技を披露し、新入生の入部を刺激した。なお今回の催は生徒会の手で殆んどなされたことが注目される

写真は上級生によるスタンツ。美事な体形をとくと御覧下さい。（指揮者は奥屋先生）



## ブラスバンド、ロスへ

### 古田先生も同行

名古屋・ロサンゼルス両都市のシスターシティ（姉妹都市）提携三周年及び中部日本吹奏楽連盟創立五周年記念として、本校吹奏楽部（左記）十六人（団員三十二名中）が選抜されて「ロサンゼルス派遣名古屋学生吹奏楽団」の団名のもとにロサンゼルスに派遣されて八月十日から始まる「ロサンゼルス二世祭」に参加、約二週間、日米親善交歓演奏、日米合同パレードなど両国民の堅い握手を一段と強め、その友情を一層深めることとなった。ロサンゼルス派遣メムバーは左記の通り。

（正メムバー）（クラリネット）土橋保夫（E3F）・高橋孝市（T3A）・黒川博英（E3F）・（トラムペット）上条勝彩（E3A）・広田和雄（E3C）・中島誉（E3F）・（サキソホンアルト）中山靖史（E3G）・（サキソホン・テナー）榊原浦裕（E3F）・（メロホン・アルト）菅井善章（E3B）・（トロムボーン）安達敏雄（E3E）・乾茂樹（E3G）・（小バス）笠原正之（M3）・（中バス）星野貞信（M3）・（スーザホン）服部利夫（E3D）・（小ドラム）千田邦彦（E3F）・（大ドラム）池戸正勝（E3H）

（補欠メムバー）（ピッコロ）飼沼慶紀（E3G）・（トラムペット）大戸整（E3D）・（スーザホン）高瀬正行（E2E）・（大ドラム）渡辺孝彦（E3F）

なお、指揮者として神納先生、生徒附添者として古田先生が同行される。

### お願い

同窓生の方で大正三、四年頃出た校報第一号をお持の方、または矢場町時代の学校の写真をお持の方は編集部まで御連絡下さい。

日本工業規格
保安帽、交通保帽、安全靴、
防塵、防毒、マスクとめがね
作業帽、作業服
其の他労働安全衛生保護具一式
合資会社　天神屋
代表社員　水野政尾
営業所　名古屋市北区彩紅橋通二ノ三
電話（98）2381番
自宅　名古屋市北区下飯田町二の四三

中央電気工事株式会社
名古屋市中区南伊勢町2ノ10
電話㉔局代表3566・0397
支社　東京都新宿区番衆町36
電話（341）局代表0193
出張所　大阪・仙台・金沢

油入遮断器
配電盤・制御盤・分電盤
油入開閉器・発変電所用器具
株式会社　愛知電機製作所
本社工場　名古屋市熱田区西野町2丁目23番地
電話代表㊻4171～5
春日井工場　春日井市桃山町北山　電春日井4175～7
東京出張所　東京都中央区日本橋本町1の3
電日本橋（241）5984
取締役社長　箕浦勘一（大正7年卒）
常務取締役　福田芳朗（昭和13年卒）

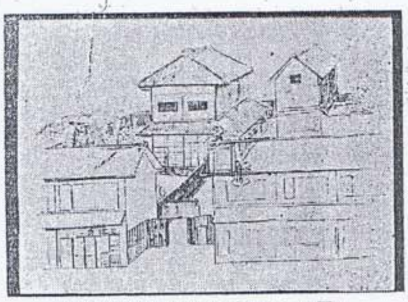
# 50周年記念式典を迎え 同窓会の動き活発

矢場町に始まった名古屋電気学園の歴史もここに半世紀を記録し、今度それを記念して金山体育館において五十周年記念式典を盛大に行なうことになった。なお、同窓会として次のような打合わせ会を持った。

二月十日午後六時より最初の常任理事会を宝光寺白鳥館において催し、後藤学長、石野、寺尾、横山の副理事長、大矢事務局長、野間、伊藤、森、中野、石原、小原、津田、亀田、高木の常任理事出席、同窓会の運営並びに母校創立五十周年を迎えることについて懇談した。

三月十九日午後六時より母校において催し石野、寺尾、横山の副理事長、大矢事務局長竹内、森、野崎、小原、津田、伊藤、石原、古田高木、野牧、亀田の常任理事出席、同窓会総会の開催同窓会事業、同窓会活動について協議した。

四月十七日午後六時三十分より東区萱屋町泉玉において同窓会常任理事会が石野、寺尾、横山、野崎、伊藤、森、吉尾、長谷部、竹内、津田、中野、大矢、高木、野牧、亀田の各常任理事出席のもとに催され、次の事項について協議された。同窓会会則の一部変更、支部結成について、評議員の選出、母校創立五十周年記念式に同窓生の出席について、同窓会員名簿の作成、母校創立五十周年記念事業に対しての後援について、なお式典後四時半より母校体育館にて総会を行なうことに決定された。



矢場町校舎の想像画（松浦新一郎画）

## 紫電会会長に 片野治君就任（三一回）

名古屋市交通局同窓会（紫電会）総会が四月二十四日午後六時より、名交会館に於て催された出席者五十五、議長に坂本理一君（七〇回）が選ばれ、会長宇佐美時次郎君（二四回）より経過報告、小原菊雄君（五九回）の会計報告、監査丹羽博君（二〇回）より監査、報告に続き服部忠雄君（二九回）より役員改選の件につき提案があり、新会長に片野治君、副会長に宇佐美時次郎君、服部忠雄君会計に長縄一雄君（六一回）、監査に大野春雄君（三三回）、佐藤常一君（四〇回）幹事に木村義直（五一回）他一八名の諸君が選ばれた。なお当日本部より同窓会事務局長大矢覚明君が列席し母校の近況を説明した。

## 名市交通局同窓会（紫電会）

一月十一日、十六日の二日に亘り午後五時半より支部同窓会員一五七名が二回に別れて懇親会を催した。母校並びに同窓会より岩井先生、加藤、亀田理事が列席した。会員は市交通局、電気課、電路事務所西町工場、電車運輸事務所、高速運輸事務所に勤務し、多忙にもかかわらず大部分出席し非常に盛会であった。

## 愛知電機製作所 支部を結成

去る一月二十日愛知電機製作所、常務福田芳朗君（四九回）の世話役にてテレビ塔西の料亭にて同支部の結成会あり、社長箕浦勘一氏はじめ二十五名出席、学園より岩井、竹松両先生が臨席、社長の経営苦心談、現況の説明等あり、従業員は三五〇名で四〇名が同窓生でそれぞれ要職について活躍していること、最近春日井市に新工場を設け社運益々隆盛に向いつつあり近い中に従業員を五〇〇名位にしたいとの話があった。なお同支部長に箕浦勘一氏が推選された。

## 同窓会支部結成について

四月十七日催された同窓会常任理事会において支部結成について次のように決めた。

一、会則第十三条に基き支部を結成する。二、支部設置は、職域内に勤務する会員または地域内に在住する会員をもって組織するものとする。三、会員数については制限を設けないものとする。四、支部結成承認手続は下記の通り。

## 御願い

母校創立五十周年記念事業の一つとして同窓会名簿を昭和三十七年末までに発刊致す計画でありますので同窓会支部を結成されてない会員はできるだけ早く氏名、卒業回数、住所、勤務先を御知らせ下さい。

名古屋電気学園同窓会　事務局

# 同窓会役員改選 理事長に井戸杢三君（一回）

昨年十一月末、理事会が後藤学長、大矢覚明理事長、坂梨健児、丹羽銀重、加藤勇吉、伊藤鎮、田中功、檀義雄、水野政尾、水谷一夫、石野清、寺尾博之、横山敏夫、亀田俊明の各理事出席して行なわれた。大矢理事長より挨拶があり後藤学長より母校の近況並びに母校創立五十周年の記念行事につき挨拶並びに説明があった後大矢理事長より、翌年は母校創立五十周年に当るので同窓会として新もこの際役員を改選して新役員により活発に運営して頂き度いので、理事長を辞任致したいとの申し出があり、辞任を承認され、新理事長は井戸杢三君（一回）にお願いすることになった。

なお理事は留任して頂くことになり、副理事長、同窓会事務局長、常任理事には次の諸君が決まった。

氏名　卒業回数　勤務先

副理事長
石野清（四七）通産局
寺尾博之（四七）中部電力
水谷一夫（三四）名鉄
横山敏夫（四一）近畿日鉄

事務局長
大矢覚明（二二）五十鈴商会

常任理事
野崎金一（三九）三菱電機
竹内哀司（四五）中部電力
中野久一（六四）愛知電機
伊藤 釣（五一）高岳製作所
小原菊男（五九）市交通局
森 勇夫（五三）中部電力
石原景介（六七）中立電機
吉尾浅吉（五三）電々公社
長谷部勇（四七）中部電力
津田 登（六五）市交通局
亀田俊明（六〇）名電学園
古川和義（六三）〃
野牧一雄（七七）〃
高木信一（八〇）〃

## 支部結成承認願

名古屋電気学園同窓会理事長殿

支部名

代表者　㊞

下記のとおり支部を結成いたしますから、御承認をお願いいたします。

| | |
|---|---|
| 支部名称 | 名古屋電気学園同窓会〇〇支部 |
| 代表者名 | |
| 連絡先 | |
| 支部の範囲または地域 | |
| 会員数 | |
| 会員名簿 | （氏名、卒業年の次回数）住所、勤務先等） |
| 備考 | |

# 矢場町日記 ②

加藤勇吉（大正四、卒）

加藤君

甚だ断片的な記録でありますが前号にひきつづき紙面を割愛して頂きます。

大正二年四月七日午前八時半より矢場町校舎にて本校初めての昼間生入学式行なわれ、袴姿の新入生五十名ばかり予科に編入さる。稲葉校長の訓示あり、授業料納付、一日四時間の時間割発表される。

四月二十六日、稲葉校長の科外講話あり、「ナポレオンの引き出し」面白し、今夜七時より本校において福沢桃介先生の講演会あり（前号所載）

四月三十日第三師団招魂祭にて臨時休校となる。

六月二十九日午後六時より校友会あり、岡本教頭の「キューリー夫人」のお話、初見、小山両講師の講演、稲葉校長の訓示後余興に落語一席あり、九時散会す。

十月二十六日遠足会にて五時笹島駅に至れば既に後藤理事はじめ井阪、堀の諸先生等来り居らる。五時半発にて岐阜駅下車、電車にて美濃町、それより徒歩にて長良川水源地に向う里余にして名古屋電灯長良川発電所に達し所内見学、帰路板取川発電所及同第二発電所工事を見学、小倉公園を回遊して五時発帰名する。

十月三十一日　天長節観兵式行なわる。練兵場に至り初めて飛行機の飛翔するを見る。金城のはるか上空十間の翼が一尺ほどに見ゆ。プロペラの音もかすかに聞ゆ。竹製のものなりと。

十一月十二日　大元帥陛下名古屋離宮御駐輦、大演習御統裁遊ばされるので名古屋市内は大賑ひを呈す。

十一月十三日　わが校は新調の金色燦然たる校旗を捧持して全校生徒沿道に堵列して車駕を拝す。

十二月二十一日　午後六時半より講話会開かれ、後藤先生御病気にて欠席せらる。清水先生の「国木田独歩」本多先生の「樺太地史」のお話あり。

大正三年一月三十日　本多、太田両君の主唱にて予科生の同志集りて電友会を組織し林会長、加藤副会長神谷、伊藤両君幹事に選ばれ会則を作る。

二月七日　電友会第一回茶話会を開く。後藤先生の出席を乞ひ金五十銭の寄附を頂く、会するもの二十一名にて後藤先生を名誉会長に推す。会員の演説、詩吟放唱あり、嚥会にて茶せんべいが出て午後一時半散会す。

二月二十六日　物理学校出身の本多先生の数学の講義は皆が熱心に勉強する先生も熱心にて本科になったら高工に負けない教授をして上げるとのことに皆大いに喜ぶ。

三月七日　第二回電友会の茶話会を開く、後藤先生より懇篤なる訓話を受け、一同感激する。会員一人づつ演説をし菓子を配り余興あり。

三月八日　日曜快晴なれば鈴木、神谷の両君と共に鍋屋上野より覚王山へ散策す。途中後藤先生御一家の墓参せらるるに逢ふ。

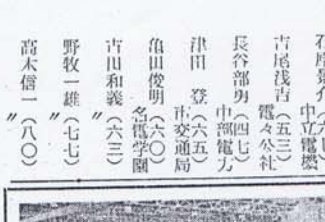
三月十七日　本校に制服規程が出来四月一日より実施のこととなる。新らたに制定されたる帽章は金モールにてオームの法則をあらわしたるものにて一個三十五銭なり、さきに本校の象徴たる校旗新調せられ今また校規粛正のため制服規程成る。本校の遠大なる理想は着々実現に向う如し。

五月二日　昼間学生の本校と併設の英独語学校に通うものあり、独乙語は後藤先生自ら教授され、英語は中西先生教えらる。月謝金壱円にて英語教科書は星野書店発行の「チョイス・リーダー」を用う。

五月九日　かって本校の寄宿舎に在り後ち上京せし旧友木崎君より来信あり、同封の為替と共に後藤先生に渡す。先生為替は返えしてやれ蚊帳も送ってやれと云わる。木崎さぞかし師恩に感泣するならん。

（三七、五、一）


配電盤
分電盤
制御盤
油入遮断器
断路器
変成器
其の他発変電所機器一般



配電盤工場の一部

販売　中立電機株式会社
名古屋市昭和区白金町6—20
電話瑞穂⑧7161〜6

製造　株式会社 中立電機製作所
取締役社長　石原又造
（大正10年卒）

巻鉄心変圧器　電力用変圧器
各種特殊変圧器　ネオン変圧器
電動工具　小形モータ

愛知電機

株式会社 愛知電機工作所／春日井市松河戸町3880
東京／名古屋／大阪／札幌／仙台／福岡／岡崎／四日市／広島